人生ハンド仏句

第７５号
Ｈ．２０．６．１
（毎月１日発行）

編集・発行
玉蓮山　真　成　寺
編　集　部　谷川久仁子
TEL・FAX　(0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/

真成寺の朝勤（ちょうごん）

住職　谷川寛俊

パーティー会場に定刻前に現れるのが日本人で、丁度にくるのが英国人で、フランス人は小一時間遅れる。イタリア人は二時間遅れても平気、スペイン人はその時間になってもまだベットの中だという。（織田一郎「時」の国際バトル）なるほど時間感覚のお国ぶりを言い当てている。日本人はせっかちと言うことなのかもしれません。

ラテン系の人達から「そんなにせかせかして何が楽しい」と言われそうですね。

ところで我が真成寺も現在、朝のお勤めは夏の時間帯で、朝四時半に私が山門を開けに行き一日がはじまります。（冬は五時半開門です）しばらくして総代の米屋柾男さん（八十五歳）がまず第一番目にやって来られ、本堂の前で一人でラジオ体操が始まります。もうかれこれ三十五年間寒い冬でもほとんど休む事無く毎朝元気にご参詣になります。お蔭さまで風邪一つ引かなくなったとのこと、以前日蓮宗より総長表彰を受けられました。体操が終わって本堂に入って来られ、あちこちにある電燈にスイッチを入れ、日蓮大聖人様、その他各所に安置されている諸天善神様にお燈明を捧げられ、そして位牌段に奉られているご自分の家のご先祖様に朝の御挨拶をされます。五時五分前に大太鼓の前に座し、携帯ラジオがスイッチオン、まもなく五時の時報です。五・四・三・二・一「ツーン」と同時にお題目の太鼓が堂内に響き渡ります。又、毎朝数名の参詣者の方々も団扇〔うちわ〕太鼓を片手にお題目の大音声となります。まもなく、私と副住職が入堂して朝のお勤めが始まります。

この様に数秒の狂いもなく、時間励行のお勤めが行われるのは全国どこを探しても我が真成寺だけ〔日本一〕と自負いたしております。しかも、町内の人達はこの真成寺の太鼓の音が目覚まし時計代わりになっているのもうなずけます。

毎朝のお勤めには、真成寺檀信徒各家、先祖代々のご供養と本日ご命日の法名を拝読し、更に各家、家内安全、身体健全のご祈願を致しております。

特に毎月一日ともなれば、多勢の方々が欠かすことなくご参詣されますので、荘厳そのものであります。遠くは、黒部市、立野地区や若栗地区からもご熱心な方々が参詣されます。

この朝のお勤めに参詣するように習慣づけられたのは、先代の師匠であり、師父の日龍猊下でした。すでに半世紀が経過しました。

この様にお寺の良い伝統を守り、継承していくことはなかなか大変な事ではありますが、これも我々お寺に住する者の責任であり、つとめでもあり、何よりも自らの罪障消滅と思い、日々修行させて頂いて居ります。

お寺ではよく「法燈継承」という言葉を使います。これは、一本のローソクの燈が消える事無く、次の代と受け継がれていくという意味です。

五〇〇年の古い歴史を持つ真成寺の第三十五代目住職に就任して早や二十二年目を迎えていますが、最近特に思うことは、歴代の先師（住職）諸上人が連綿として築き上げて来られた良き伝統を汚す事無く檀信徒の皆様のご協力を得て寺門興隆に今まで以上、努力精進していかねばと痛感致している昨今です。

今月は、皆様方の菩提寺である真成寺を遠方で来たくても来れない方々、また一度も参詣する機会に恵まれない方々、等々に少しでもその様子を知っていただく為に取り上げさせていただいた次第であります。

させて頂いていると思うことの出来る

有り難さ